



おきなわ



作品名：「磯に漂う船」 撮影：神里信子さん（那覇市）

目次

- ② 沖縄県社協 平成22年度事業実績
決算報告
- ⑤ 第3次沖縄県社協21プランの概要
- ⑥ 沖縄県共募 平成22年度事業実績
決算報告
- ⑨ シリーズ活動最前線
「買い物代行サービスセンターにこここ屋」
- ⑩ ほっとニュースTOPICS
・県市町村社連総会・県受入被災者見舞金給付事業
- ⑩ ほっとニュースTOPICS
- ⑬ 福祉人材研修センター情報
・職場体験、マッチねっとのご紹介
・介護支援専門員実務研修受講試験のご案内
・福祉用具展示会の御案内
- ⑬ 福祉人材研修センター情報
- ⑬ インフォメーション、寄付者芳名 他

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を使用させていただいております。

平成22年度 沖縄県社会福祉協議会 事業実績・決算報告

去る5月24日の第1回理事会・評議員会にて、平成22年度沖縄県社会福祉協議会事業実績報告及び決算報告が審議され、承認されました。本紙では、重点事項を中心に主な実績概要を報告いたします。詳細につきましては、本会総務企画部または本会ホームページにて閲覧することが出来ます。

近年の少子高齢化の進展や長引く景気低迷による雇用情勢の悪化などを背景に、県民の福祉・生活問題が深刻化しており、福祉施策の充実とセーフティネットの強化が重要な政策課題となっている。

また、単身世帯や核家族の増大、個人の価値観の多様化等によって、「無縁社会」と称されるように住民同士のつながりや伝統的な相互扶助機能の低下が指摘されており、地域における新たな支え合いの仕組みの構築が、あらためて求められている。

このような社会状況を踏まえて、平成22年度は次の事業に重点的に取り組んだ。

○市町村社協との連携強化

地域福祉推進の中心的な

役割を担う市町村社協に対し、コミュニティ・ソーシャルワーク技法の普及を図るとともに、18箇所の社協を訪問して活動課題への提言に努めた。



○社会福祉事業従事者の資質向上と研修事業

福祉サービスの一翼を担う社会福祉施設・法人の安定的な事業展開とサービスの向上を目指して、福祉人材の確保・養成・定着を支援するため、福祉人材無料職業紹介支援事業や福祉施設種別協議会及び福祉人材研

修センター等による従事者研修事業を展開した。特に、前年度より受託している福祉・介護マッチング支援事業においては、労務管理や人材育成等の専門家による34回の訪問相談支援や48回の出前研修を実施し、福祉人材の育成と定着を図った。

○生活福祉資金貸付事業

低所得世帯等の自立更生を目的とする生活福祉資金貸付事業においては、平成21年10月の総合支援資金の創設、保証人要件の緩和等の改正に伴い、貸付件数が大幅に増加する一方、県内の失業率の高さに鑑み、今後の償還が困難な債権の増加が予想される。

○明るい長寿社会づくり

平成21年度から実施して

いる沖縄ねりんピックには、ソフトテニスや囲碁等のスポーツ・文化18競技に約1,800人が出場し、絵画、彫刻等の美術展6部門には、前年を大きく上回る198点が出品されるなど、シニアのスポーツ・芸術活動の振興に尽力した。



かりゆし長寿大学校では、今年度より地域文化学科・健康福祉学科・生活環境学科の3学科制を採用。また、自主活動として園芸等の6クラブ活動を導入して、生きがいと健康の保持・増進及び地域活動の担い手の養成に努めた。

○日常生活自立支援事業

判断能力が不十分な高齢

者や障害者等の福祉サービス利用援助、金銭管理などを行う日常生活自立支援事業は順調に拡大しているものの、生活支援員の不足等から利用待機者の解消に至っていない。

○福祉サービスに関する苦情解決事業

福祉サービスの現場における利用者の苦情に適切な対応を図ることができるよう、福祉サービス運営適正化委員会において、事業所ごとの苦情解決体制の整備を進めるとともに、事業所内で解決できなかった事案に関しては、調査と助言を行った。

○地域生活定着支援センター

平成22年度より沖縄県の委託を受けて、福祉サービス等の支援が必要な矯正施設退所者の社会復帰を支援し、再犯防止対策に資することを目的として、地域生活定着支援事業を開始した。9月の支援センター開設後、県内12件、県外2件の支援依頼があり、退所者の受入れ施設等のあつせん及び福祉サービス等に係る申請の支援等を進めた。

○東日本大震災への対応

平成23年3月11日に発生した東日本大震災被災者への支援を図るため、九州社会福祉協議会連合会の幹事県として、九州各県・指定都市社協の連絡調整にあたり、2陣4名の職員を派遣して福島県社協災害ボランティアセンターの設置・運営に協力した。



各事業の成果や効果に着目した実績報告書へ変更

平成22年度の事業実績報告書より、従来の事業実施概要の記述に加えて、新たに各事業の具体的な成果や効

果を記述し、事業の実績が把握できるように様式を左記のとおり改めました。

例)

I 市町村社協との連携強化と支援の充実 2 地域福祉ネットワーク事業等の推進		
事業計画	実施事業の概要	具体的成果
(2)離島等小規模社協への支援		
①離島等小規模社協の訪問指導	伊是名村・竹富町・石垣市・宮古島市・久米島町・多良間村・伊平屋村の7社協を訪問し、社協活動や組織運営についてのヒヤリングと情報提供・助言を行った。	各社協の法人経営や事業推進について情報収集が図られるとともに、種々の課題について認識の共有が深まり、より適切な相談支援にあたることができた。

平成22年度 沖縄県社会福祉協議会 決算報告書

一般会計

(単位：円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	129,057,901	流動負債	76,334,081
固定資産	1,932,746,360	固定負債	251,485,208
		基本金	1,000,000
		基金	1,491,856,213
		国庫補助金等特別積立金	759,307
		その他の積立金	193,754,483
		次期繰越活動収支差額	46,614,969
計	2,061,804,261	計	2,061,804,261

収益事業特別会計

(単位：円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	32,107,483	流動負債	4,044,253
固定資産	171,273,442	固定負債	14,486,710
		基本金	0
		基金	0
		元入金	40,765,033
		その他の積立金	45,144,217
		次期繰越活動収支差額	98,940,712
計	203,380,925	計	203,380,925

生活福祉資金特別会計

(単位：円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	2,970,276,483	流動負債	608,815,359
固定資産	2,923,711,387	固定負債	5,670,620,635
		基金	2,517,863,171
		積立金	△ 5,264,772,419
		繰越金	2,361,461,124
計	5,893,987,870	計	5,893,987,870

資金収支計算書

支出		収入	
経常支出	548,229,919	経常収入	577,382,708
施設整備等支出	0	施設整備等収入	0
財務支出	12,269,360	財務収入	1,072,260
予備費	0	前期末支払資金残高	47,402,131
当期末支払資金残高	65,357,820		
計	625,857,099	計	625,857,099

資金収支計算書

支出		収入	
経常支出	111,246,279	経常収入	114,409,670
施設整備等支出	0	施設整備等収入	0
財務支出	3,705,600	財務収入	0
予備費	0	前期末支払資金残高	29,599,439
当期末支払資金残高	29,057,230		
計	144,009,109	計	144,009,109

収支計算書

借方		貸方	
事業費	615,983,998	補助金収入	0
積立金繰入支出	720,569	事業収入	365,477,283
繰出金	34,174,722	積立金戻入収入	0
会計間資金貸付金支出	0	積立金利息収入	720,569
予備費	0	繰入金収入	0
当期繰越金	2,970,224,868	雑収入	18,809,421
		繰越金収入	3,236,096,884
計	3,621,104,157	計	3,621,104,157

事業活動収支計算書

支出		収入	
事業活動支出	594,401,098	事業活動収入	570,078,105
事業活動外支出	18,051,710	事業活動外収入	49,404,471
特別支出	0	特別収入	0
その他の積立金積立額	2,000,000	前期繰越活動収支差額	41,585,201
次期繰越活動収支差額	46,614,969	その他の積立金取崩額	0
計	661,067,777	計	661,067,777

事業活動収支計算書

支出		収入	
事業活動支出	110,116,618	事業活動収入	115,230,107
事業活動外支出	7,730,000	事業活動外収入	149,563
特別支出	0	特別収入	0
その他の積立金積立額	2,694,000	前期繰越活動収支差額	104,101,660
次期繰越活動収支差額	98,940,712	その他の積立金取崩額	0
計	219,481,330	計	219,481,330

※ 紙面の都合により、決算額（大区分）のみの掲載とさせていただきます。なお、平成22年度財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書等詳細については、本会ホームページにおいて閲覧することが出来ます。

※(社会福祉法人会計基準適用)

平成22年度 沖縄県社会福祉協議会 決算報告書

要保護者世帯向け長期生活支援資金特別会計 (単位: 円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	172,717,716	流動負債	0
固定資産	27,292,000	固定負債	200,000,000
		基金	27,292,000
		積立金	△ 200,000,000
		繰越金	172,717,716
計	200,009,716	計	200,009,716

収支計算書			
借方		貸方	
事業費	11,556,000	補助金収入	0
積立金繰入支出	0	事業収入	0
繰出金	759,393	会計間資金借入金収入	0
予備費	0	積立金戻入収入	0
当期繰越金	172,717,716	積立金利息収入	0
		雑収入	759,393
		繰越金収入	184,273,716
計	185,033,109	計	185,033,109

生活福祉資金貸付事務費特別会計 (単位: 円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	5,736,863	流動負債	5,189,796
固定資産	14,223,506	固定負債	0
		基金	14,223,506
		積立金	0
		繰越金	547,067
計	19,960,369	計	19,960,369

収支計算書			
借方		貸方	
事務費	47,658,970	補助金収入	63,799,000
事業費	53,516,150	繰入金収入	34,934,115
繰出金	1,971,960	雑収入	91,665
予備費	0	繰越金収入	4,869,367
当期繰越金	547,067		
計	103,694,147	計	103,694,147

※(生活福祉資金会計準則適用)

臨時特例つなぎ資金特別会計 (単位: 円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	18,454,694	流動負債	227,287
固定資産	16,839,650	固定負債	54,361,000
		基金	16,839,650
		積立金	△ 54,361,000
		繰越金	18,227,407
計	35,294,344	計	35,294,344

収支計算書			
借方		貸方	
人件費	2,273,130	補助金収入	0
事務費	637,080	事業収入	17,093,530
事業費	11,106,000	繰入金収入	0
負担金支出	0	雑収入	24,051
繰出金	0	繰越金収入	15,126,036
当期繰越金	18,227,407		
計	32,243,617	計	32,243,617

介護福祉士等修学資金特別会計資金収支計算書 (単位: 円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	171,822,610	流動負債	181,087
固定資産	75,122,300	固定負債	0
		基金	0
		積立金	0
		繰越金	246,763,823
計	246,944,910	計	246,944,910

収支計算書			
借方		貸方	
人件費支出	2,199,486	事業収入	0
事務費支出	634,855	貸付事業等収入	1,137,700
貸付事業等支出	46,000,000	受取利息配当金収入	616,569
固定資産取得支出	0	会計間繰入金収入	0
当期繰越金	171,641,523	繰越金収入	218,721,595
計	220,475,864	計	220,475,864

総括財産目録 (単位: 円)

貸借対照表			
I 資産の部	金額	II 負債の部	金額
流動資産	3,469,367,397	流動負債	664,273,850
固定資産	5,333,384,038	固定負債	6,176,466,843
		△ 元入金	△ 40,765,033
資産合計	8,802,751,435	差引純資産	1,921,245,709

平成18年度より策定し、実施してきた本会の中期計画である「第2次沖縄県社会福祉協議会21プラン」が平成22年度で終了するにあたり、本会総合企画委員会を中心に第3次プランの検討を行ってきました。総合企画委員会では、第2次プランの5年間の総括評価を実施した上で、社会経済情勢や福祉施策の動向などに即した本会の使命、求められている役割について議論を重ね、「第3次沖

神里委員長からは、「地域住民同士の支え合い



答申書の手交(左)新垣会長、(右)神里委員長

縄県社会福祉協議会21プラン」及び「沖縄県社会福祉協議会経営基盤強化計画」をまとめ、5月23日(月)新垣会長へ神里委員長より答申を行いました。

活動を推進していく上で県社協の役割は大きく、調査研究・提言機能の強化が求められている。今回の第3次プランでは、県社協として取り組むべき重点項目を中心にまとめた」と説明がありました。答申された「第3次沖縄県社会福祉協議会21プラン」と「沖縄県社会福祉協議会経営基盤強化計画」は、その後、理事会及び評議員会での議決を経て、正式に承認されました。

沖縄県社会福祉協議会 総合企画委員会より「第3次沖縄県社協21プラン」及び「沖縄県社協経営基盤強化計画」の答申

第3次沖縄県社会福祉協議会21プラン 一概要一

基本理念

「自立と共生」の理念に立ち、沖縄の福祉文化を創造しつつ、県民一人ひとりが共に支え合い、安心して生活できる地域社会を形成していくため、県民並びにあらゆる関係者の参画と協働のもと、地域福祉活動を総合的に推進します。

基本目標

1. 地域福祉の推進及び福祉文化の形成

2. 福祉サービス利用者及び当事者団体活動の支援

3. 地域自立生活を支える福祉基盤づくり

4. 明るい長寿社会づくり

5. 政策提言活動の強化

活動目標

1. 市町村社協活動強化の支援を通じた地域福祉の充実
2. ボランティア・市民活動の充実強化
3. 社会福祉施設の地域福祉・地域貢献活動の支援
4. 民生委員児童委員活動の強化・支援
5. 地域包括支援体制の確立

1. 施設提供サービスの質の向上
2. 社会福祉法人経営改善・安定のための支援
3. 資金助成による活動支援の推進
4. 福祉人材の養成・確保事業等の推進
5. 介護技術等の普及による介護意識の促進
6. 苦情解決による適切な福祉サービスの推進

1. 低所得者等への支援
2. 権利擁護活動の推進
3. 福祉サービスを必要とする矯正施設退所者への支援

1. 高齢者の生きがいと健康づくりの推進

1. 調査研究・企画活動の強化
2. 福祉施策への提言・要請活動の強化

こんなことを行います

市町村社協や社会福祉施設、民生委員児童委員などの福祉関係者をはじめ、ボランティアやNPO・県民による地域活動への支援を通して、孤立死の防止や災害時の要援護者支援など、誰もが住みなれた地域で安心して生活が送れるよう地域福祉活動を総合的に推進していきます。

従事者研修による職員のキャリア形成や人材の確保、利用者等からの苦情に対する適切な対応等、社会福祉法人の経営基盤強化を図り、質の高いサービスが安定的に提供されるよう支援します。
また、当事者団体やNPOなど民間の福祉活動を資金助成を通して支援していきます。

失業者や低所得者等の生活再建に向けた生活福祉資金等の貸付事業、判断能力が低下しても地域生活を継続できるよう支援する日常生活自立支援事業、矯正施設退所者の地域生活の基盤づくりを行う地域生活定着支援事業、これらの事業をとおして、特に支援が必要な方々の地域自立生活を支えます。

かりゆし長寿大学校やねんりんピック、かりゆし美術展などをとおして、高齢者の地域生活を支援するとともに、地域活動の担い手養成を行います。

総合企画委員会や予算対策協議会などを通じた調査研究活動を強化し、県民の福祉ニーズに基づいた政策提言活動を行います。

同募金会事業実績報告書

3) 義援金交付式の開催

[平成22年12月27日(月) 沖縄県総合福祉センター西棟4階]

① 歳末義援金配分状況(未法人・小規模作業所等)

(単位:円)

区分	団体数	対象人員	配分金額
心身障害者小規模作業所	21	1,173	1,949,000
知的障害者小規模作業所	20	833	1,867,000
精神障害者共同作業所	3	80	213,000
未法人・任意団体	7	498	700,000
児童養護施設	7	19	380,000
合計	58	2,603	5,109,000

② 歳末義援金配分状況(離島地域)

市町村名	高齢者	障害児者	児童	住民全般	合計
1 伊平屋村	39人 195千円	5人 25千円			44人 220千円
2 伊是名村	6人 30千円	3人 15千円	1人 5千円		10人 50千円
3 渡嘉敷村	16人 80千円	4人 20千円			20人 100千円
4 座間味村	33人 165千円	5人 25千円			38人 190千円
5 渡名喜村	41人 205千円	3人 15千円		6人 30千円	50人 250千円
6 南大東村	7人 35千円	5人 25千円	1人 5千円	4人 20千円	17人 85千円
7 北大東村	10人 50千円				10人 50千円
8 多良間村	21人 105千円	41人 205千円	3人 15千円	2人 10千円	67人 335千円
合計	173人 865千円	66人 330千円	5人 25千円	12人 60千円	256人 1280千円

4) 歳末たすけあい物品受付

- ・玄米ドリンク 65ケース
- ・LLドリンク 50ケース
- ・クリスマスケーキ 560個
- ・チキン 600本

5) 歳末たすけあい物品配分表

① 玄米ドリンク・LLドリンク配分表

団体名	玄米(ケース)	LL(ケース)
名護市社会福祉協議会	11	8
国頭村社会福祉協議会	6	5
大宜味村社会福祉協議会	6	5
東村社会福祉協議会	6	5
今帰仁村社会福祉協議会	7	5
本部町社会福祉協議会	8	6
恩納村社会福祉協議会	7	5
宜野座村社会福祉協議会	6	5
金武町社会福祉協議会	8	6
合計	65	50

② クリスマスケーキ配分表

施設種別	施設数	配分個数
精神障害者生活訓練施設	2	6
精神障害者授産施設	1	4
肢体不自由児施設	2	16
児童養護施設	6	49
児童デイサービス	23	55
重症心身障害児施設	4	37
知的障害者授産施設	4	21
身体障害者療護施設	1	23
知的障害児施設	2	8
知的障害者更生施設	9	69
婦人保護施設	1	4
沖縄県母子寡婦福祉連合会	1	41
障害者支援施設	41	191
身体障害者福祉センター	1	6
児童自立支援施設	1	5
児童一時保護所	1	3
母子生活支援施設	3	22
合計	103	560

③ チキン配分表

団体名	配分個数
なごみ	50
美さと児童園	60
石嶺児童園	100
袋中園(青雲寮)	120
愛隣園	70
島添の丘	80
瀬水学園	70
ならさ	50
合計	600

6) 歳末たすけあい大口寄付(大口) 2件 2,964,000円

7) 歳末たすけあい大口寄付(個人) 3件 2,800,000円

Ⅵ 災害たすけあい運動の展開

(単位:円)

名称	送金額
宮崎県口蹄疫被害義援金	1,000,000
鹿児島県口蹄疫被害義援金	233,880
平成22年広島県大雨災害義援金	200,000
山口県平成22年7月大雨災害義援金	100,918
10月20日の奄美地方大雨災害義援金	1,061,799
東北関東大震災義援金	47,293,358
合計	49,889,955

Ⅶ 公益補助事業

① 財団法人JKA補助事業

(単位:円)

法人名	事業費総額	決定額
沖縄コロニー	3,698,000	2,500,000
九仙会	3,560,000	1,916,000
祐愛会	2,925,000	1,916,000
喜寿会	2,043,000	1,500,000
北中城村社会福祉協議会	2,276,000	1,416,000
久米島町社会福祉協議会	4,016,000	2,500,000
西原町社会福祉協議会	2,270,000	1,416,000
合計	20,788,000	13,164,000

② 平成22年度中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

(単位:円)

法人名	事業費総額	決定額
国際福祉会	740,000	470,000
雄愛福祉会	2,933,000	2,190,000
若竹福祉会	483,000	350,000
幸仁会	5,180,000	3,890,000
合計	9,336,000	6,900,000

Ⅷ 各種委員会及び交付式の開催

- 1) 共同募金に係る委員会(共同募金配分委員会) (2回)
- 2) 財団法人JKA等公益補助事業に係る委員会 (2回)
- 3) 補助金・助成金等の内定通知書交付式 (2回)

Ⅸ 県外関係機関・団体の会議、研修会への出席

- 1) 共同募金関係 (6回)
- 2) 公益資金関係 (1回)
- 3) 中央共同募金会評議員会への出席 (1回)

X 支会・分会(市町村社協)関係団体等の実施する会議等への参加

- 1) 支会・分会(市町村社協)への助言支援 (16回)

Ⅵ 会務の運営

- 1) 理事会の開催 (4回)
- 2) 監事の監査 (1回)
- 3) 評議員会の開催 (2回)



©中央共同募金会



平成22年度 沖縄県共

I 平成22年度（第59回）共同募金運動の実施

225,755,000円の目標額をかけた、右肩下がりの実績額に歯止めをかけることを目標に展開した本年度の共同募金運動は各支会・分会又は共同募金委員会役職員を始め、共同募金ボランティアの献身的な、ご協力と多くの県民の理解はあったものの、取り組みが充分でなかったのか一般募金の達成率は全体の83.3%で、実績額の対前年比減額に今年も歯止めをかけることができず大変厳しい結果に終わった。

目標額達成支会・分会又は共同募金委員会は前年度と同じ18ヶ所の1市8町9村で、昨年度は2市支会が目標額を達成したが、今年度は1市のみとなった。

なお実績額と達成率、配分額等は次のとおりである。

1) 平成22年度（第59回）共同募金結果

① 募金総額(単位:円)

区分	目標額	実績額	達成率
一般募金	225,755,000	185,304,861	82.1%
事務局受付・その他	0	2,855,081	-
合計	225,755,000	188,159,942	83.3%

② 配分内訳(単位:円)

配分区分	配分計画	配分額	配分率
市町村社協配分	140,755,000	110,063,861	58.5%
福祉施設団体配分	30,000,000	24,427,000	13.0%
災害等準備金	8,970,000	6,900,000	3.7%
支会・分会交付金	12,000,000	12,000,000	6.4%
次年度運動積立金	16,000,000	16,000,000	8.5%
本部経理区分繰入	18,030,000	18,769,081	10.0%
合計	225,755,000	188,159,942	

2) 市町村別実績額・配分額

市町村名	目標額	実績額	達成率
国頭村	1,977,000	1,619,278	81.9%
大宜味村	1,122,000	1,122,000	100.0%
東村	581,000	624,955	107.6%
今帰仁村	2,068,000	2,268,383	109.7%
本部町	3,611,000	3,111,775	86.2%
名護市	9,774,000	7,522,418	77.0%
恩納村	2,815,000	2,620,739	93.1%
宜野座村	1,174,000	1,660,851	141.5%
金武町	1,919,000	1,996,689	104.0%
伊江村	1,417,000	1,284,330	90.6%
伊平屋村	609,000	605,890	99.5%
伊是名村	549,000	440,410	80.2%
うるま市	21,404,000	15,975,290	74.6%
沖縄市	17,045,000	13,434,277	78.8%
読谷村	5,756,000	5,424,358	94.2%
嘉手納町	3,750,000	3,512,227	93.7%
北谷町	4,594,000	4,165,063	90.7%
北中城村	2,665,000	2,929,370	109.9%
中城村	3,273,000	3,312,625	101.2%
宜野湾市	12,652,000	9,716,047	76.8%
西原町	4,433,000	4,916,802	110.9%
浦添市	17,871,000	14,566,924	81.5%
那覇市	44,325,000	28,086,032	63.4%
豊見城市	6,850,000	5,637,829	82.3%
糸満市	7,819,000	6,619,073	84.7%
八重瀬町	5,336,000	6,165,634	115.5%
南城市	7,694,000	8,054,087	104.7%
与那原町	2,574,000	2,659,991	103.3%
南風原町	5,702,000	6,191,275	108.6%
久米島町	2,191,000	2,246,681	102.5%
渡嘉敷村	363,000	344,763	95.0%
座間味村	369,000	335,670	91.0%
栗国村	366,000	146,448	40.0%
渡名喜村	431,000	484,488	112.4%
南大東村	354,000	388,667	109.8%
北大東村	326,000	270,842	83.1%
宮古島市	9,687,000	6,594,389	68.1%
多良間村	486,000	510,284	105.0%
石垣市	7,517,000	5,268,288	70.1%
竹富町	1,671,000	1,702,979	101.9%
与那国町	635,000	766,740	120.7%
合計	225,755,000	185,304,861	82.1%

3) 平成22年度共同募金による広域福祉施設団体配分 (単位:千円)

種別	法人・施設団体名	配分額	活動範囲
障害者福祉	ゆい作業所	1,780	那覇市
身障福祉	沖縄フェニックス	2,200	県域
身障福祉	沖縄県身体障害者福祉協会	1,274	県域
精神障害者福祉	沖縄県精神障害者福祉会連合会	880	県域
老人福祉	沖縄県老人クラブ連合会	3,492	県域
社会福祉	沖縄県社会福祉協議会	6,577	県域
母子福祉	沖縄県母子寡婦福祉連合会	1,920	県域
社会福祉	中城村社会福祉協議会	4,800	中城村
身障福祉	全国心臓病の子供を守る会	1,504	県域
合計		24,427	

4) 平成19年度災害等準備金配分一覧表 (単位:千円)

種別	法人・施設団体名	配分額	活動範囲
身障福祉	日本てんかん協会沖縄県支部	470	県域
身障福祉	沖縄県身体障害者福祉協会	480	県域
障害者福祉	沖縄県自閉症協会	481	県域
合計		1,431	

5) 平成23年度事業に要する民間福祉資金助成要望調査の実施

- ① 対象法人・施設・団体（未法人含む） 675箇所
- ② 調査機関 平成22年4月7日～4月30日
- ③ 要望総額 288,533,000円

II 支会・分会組織の強化

- 1) 支会・分会運営委員会への参加 (9件)
- 2) 支会・分会から共同募金委員会への移行市町村 (15件)
- 3) 共同募金運動説明会への参加 (9件)

4) 平成22年度支会・分会（共同募金委員会） 担当職員研究協議会の開催

5) 平成22年度支会・分会（共同募金委員会） 会長・事務局長研究協議会の開催

III 広報活動の実施

- 1) 第53回沖縄県社会福祉大会の開催
[平成22年10月26日（火） 沖縄県コンベンションセンター]
- 2) 共同募金運動（一般募金用）広報チラシの作成配布
[39万4千2百枚]
- 3) 赤い羽根空の第一便伝達式の実施
[平成22年10月1日（金） パレットくもじ前広場]
- 4) 先島への「赤い羽根空の美ら島便」伝達式の実施
[平成22年10月1日（金） 宮古空港ターミナル、石垣空港ターミナル]
- 5) テレビ・ラジオスポットによる広報活動
- 6) 街頭宣伝パレードの実施
[平成22年10月5日（火） 多良間村を除く全宮古島市地区]
- 7) 平成21年度共同募金による福祉施設団体配分内定通知書交付式の開催
[平成22年4月15日（木） 沖縄県総合福祉センター西棟4階会議室]

IV 功労者の顕彰

- 1) 平成22年度共同募金感謝の集いの開催
[平成22年10月14日（木） 沖縄県総合福祉センターゆいホール]

V 大口寄付者の取り扱い

- 1) 県共募扱いの法人大口募金 (5件 9,757,000円)
- 2) 支会・分会扱いの法人大口募金 (3件 3,397,000円)
- 3) 支会・分会扱いの個人大口募金 (4件 2,000,000円)

VI 平成22年度（第55回）歳末たすけあい運動の実施

(単位:円)

	目標額	実績額	達成率
地域歳末(市町村)	66,277,000	61,637,282	93.0%
歳末(県共募)	9,000,000	6,416,060	71.3%

- 1) 地域歳末たすけあい（支会・分会又は共同募金委員会取扱い）
 - ・義援金の受付（繰越金含む） 40件 90,923,802
 - ・義援金の配分 207件 59,913,428
 - ・次年度繰越金 31,010,374
- 2) 歳末たすけあい（県共募取扱い）
 - ・義援金の受付（繰越金含む） 300件 10,613,517
 - ・義援金の配分 66件 6,389,000
 - ・次年度繰越金 4,224,517

平成 22 年度 沖縄県共同募金会決算報告

1. 一般会計

(単位:円)

(単位:円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	234,180,465	流動負債	179,636,228
固定資産	83,839,137	固定負債	13,361,490
		基本金	3,000,000
		その他の積立金	62,459,864
		次期繰越活動 収支差額	59,562,020
計	318,019,602	計	318,019,602

資金収支計算書			
支出		収入	
経常支出	361,215,502	経常収入	363,089,127
施設整備等支出	0	施設整備等収入	0
財務支出	783,794	財務収入	0
予備費	0	前期末支払資 金残高	83,399,317
当期末支払資 金残高	84,489,148		
計	446,488,444	計	446,488,444

(単位:円)

(単位:円)

事業活動収支計算書			
支出		収入	
事業活動支出	303,660,197	事業活動収入	314,760,398
事業活動外支出	65,669,000	事業活動外収入	55,648,729
特別支出	0	特別収入	0
その他の積立 金積立額	314	その他の積立 金取崩額	0
次期繰越活動 収支差額	59,562,020	前期繰越活動 収支差額	58,482,404
計	428,891,531	計	428,891,531

財産目録			
内訳	金額	内訳	金額
流動資産	234,180,465	流動負債	179,636,228
固定資産	83,839,137	固定負債	13,361,490
		負債合計	192,997,718
資産合計	318,019,602	差引正味財産	125,021,884

※ 社会福祉法人会計基準に基づく

「東日本大震災」に関するお知らせ

～東日本大震災義援金の受付口座～

1. 受付口座

- ① 沖縄銀行 石嶺支店 普通 No. 1412281
- ② 琉球銀行 石嶺支店 普通 No. 335408
- ③ 沖縄海邦銀行 汀良支店 普通 No. 0187945
- ④ 沖縄県農業協同組合
首里石嶺支店 普通 No. 0021623
- ⑤ コザ信用金庫安里支店 普通 No. 0143843

2. 口座名義 (福) 沖縄県協同募金会

(フ) 沖縄県協同募金会

※ 各銀行・農協・信用金庫とも同一名義です

3. 振込手数料について

- ・ 上記銀行での振込手数料は受付期間中、同一銀行内に限り免除となります
- ・ 沖縄銀行と琉球銀行はATMでも受付期間中は同一銀行内に限り免除となります

4. 税制措置

- ・ 金融機関の払込金受領書(ATM含む)をもって、税制上の優遇処置(所得税・法人税・個人住民税)の適用対象となっております。沖縄県共同募金会の領収証が必要な場合は連絡いただいた後、入金確認後に郵送いたします。

5. 受付期間 平成 23 年 3 月 14 日～9 月 30 日

沖縄県協同募金会

TEL 098-882-4353

FAX 098-882-4270

http://www.okishakyo.or.jp/html/kyoubou/



© 中央共同募金会

～現時点で集まっている義援金の金額～

- ・ 中央共同募金会 201.5 億円 (4 月 6 日現在)
- (沖縄県共募取扱い 75,960 万円 (5 月 31 日現在))
- ・ 日本赤十字社 1082.3 億円 (4 月 6 日現在)

※ 都道府県共募、NHK 及び NHK 厚生文化事業団で受付けた義援金は、全て中央共同募金会に集められている。

～義援金の第 1 次配分割合～

- ・ 死亡、行方不明者 1 人当たり 35 万円
- ・ 住宅全壊 (焼) 1 戸当たり 35 万円
- ・ 住宅半壊 (焼) 1 戸当たり 18 万円
- ・ 原発避難指示、屋内待避指示圏域の世帯 1 世帯当たり 35 万円

～義援金が被災された方々へ届くまで～

1. 義援金の募集・受付
- ↓
2. 義援金配分割合決定委員会にて配分額の決定
- ↓
3. 被災都道府県への義援金の送金
- ↓
4. 被災都道府県から配分対象市町村へ義援金の送金
- ↓
5. 配分対象市町村から被災者へ義援金の配分

※ 義援金配分割合決定委員会：中央共同募金会、日本赤十字社、日本放送協会、NHK 厚生文化事業団を通じて全国各地から寄せられた義援金を被災都道府県に配分する為の委員会。
(被災都道府県・募金受付団体・学識経験者で構成)



コザ十字路の御用聞き
買い物代行サービスセンター
にここ屋（沖縄市）

商店街の活性化と そこに暮らす人びとのために

平成22年5月、銀天街の一角にコザ十字路周辺に住む人びとの御用聞き的存在を目指した、「買い物代行サービスセンターにここ屋」が誕生した。

店長の平良さんがこのサービスを始めたきっかけは商店街の活性化に取り組む「コザ銀天大学」に関わり、少ないお客のほとんどが高齢者であること、独居老人の孤立死が地域の課題となっていたことから、商店街とそこに暮らす人びととのメッセンジャー的な役割が必要だと考えてのことだという。

買い物代行サービスの仕組み

①電話で買ってきて欲しい物をにここ屋に注文する。②注文を受け、



後輪一つぶん伸びた車体のロングテールと平良さん

にここ屋スタッフが買い物を行うが、その際、店舗の指定が無い場合は、銀天街商店街での購入を優先する。③注文の品を通称ロングテールと呼ばれる自転車にて配達する。④注文品の受け渡しを行い、商品代（実費）とサービス料（一般料金500円）を支払う。

サービス開始から1年間の延べ利用者は延べ50名程度。決して多いといえない数字だが、本当に必要な人にこのサービスの情報がまだ届いていないのではないかと、平良さんは見ている。

サザエさんに出てくる みかわ屋のサブちゃんを目指して

買い物代行サービスをきっかけに、電球交換や粗大ゴミの搬出などの作業を代行するサービスの需要があることも分かってきた。現在の利用状況では、ビジネスとしては成り立たないというが、「辞め

てはいけないよ。」

という常連客の声を、無視できないことや、

「このサービスを続け住民からの信頼を得ることがまず必要だ。」

とコザ十字路の御用聞き平良さんの挑戦は続く。

買い物代行サービスセンターにここ屋

住所／沖縄市照屋 1-2-3-2F
電話・FAX／098-989-1985
メール／25258@koza-xing.net
http://koza2525.ti-da.net /

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

全国170万人
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>



特長は

- 活動場所と自宅との往復途中の事故も補償
- 熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震など天災によるケガも補償（天災タイプに加入の場合）

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

年間保険料 Aプラン…280円 Bプラン…420円 天災タイプもあわせて

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、取扱代理店にお問合せください。

お申込み、お問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、日本社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を結ぶ団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区墨田区3丁目3番2号 新洲が間ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈引受新事業保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

平成23年 県社連総会 等の開催

平成23年度沖縄県市町村社会福祉協議会連絡協議会（以下「県社連」）総会並びに市町村社会福祉協議会会長・事務局長等研究協議会が、去る5月17日（火）開催され、県内各市町村社協から、会長、事務局長等計57名が参加した。

県社連総会では、監事の選任、平成22年度事業報告・決算報告、平成23年度事業計画・予算（案）の審議が行われた。

総会後の研究協議会では、沖縄県社協の山内事務局長から、「社会福祉協議会をめぐる情勢と沖縄県社協の重点事業」と題して基調報告がなされた。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災以降、被災

地（福島県）に設置された市町村災害ボランティアセンターへの職員派遣の経過説明や生活福祉資金特例貸付（緊急小口資金）の実施状況等について説明がなされ、今後は仮設住宅における生活ニーズやコミュニケーション再生への支援の必要性が指摘された。また、「第3次沖縄県社協21プラン」の概要報告において、コミュニケーションソーシャルワークの推進をはじめ、災害救援マニユアルの策定、地域の関係機関・団体と連携・協働した「地域包括支援体制」の構築に向けた市町村社協の理解と協力を求めた。

引き続き、県社協ボランティア市市民活動支援センター



ー西智子から、被災地の市町村災害ボランティアセンターへの支援経過の報告後、県内へ避難している被災地住民への支援活動について、宜野湾市・宮古島市・西原町の三社協から実践報告がなされた。

まず、県内でいち早く避難住民への支援活動を展開した宮古島市社協の下地信広事務局長から、市営住宅へ入居した避難住民へ、市民からの寄贈等をもとにした生活必需品の提供等の支援活動の報告があった。

宜野湾市社協の仲村渠満事務局長から、自治会や民生委員等と連携し、行事への参加案内や沖縄料理の宅配等の取り組みが紹介された。最後に、西原

町社協の玉城十七美事業係長から、避難世帯の子供の保育所等への手続き支援をはじめ、移動支援としての車両の貸し出し、地域の生活関連情報誌の発行等の説明があった。

【平成23～24年度沖縄県市町村社会福祉協議会連絡協議会役員】

会 長 金城 光正 (国頭村社協会長)				
(常任委員) 副会長 池田 幸榮 (南風原町社協会長)				
区 分	役員代表		職員代表	
	氏 名	役 職	氏 名	役 職
北部地区	金城 光正	国頭村社協会長	金城 直備	国頭村社協事務局長
中部地区	赤嶺 義雄	浦添市社協会長	徳元 清美	浦添市社協事務局長
南部地区	池田 幸榮	南風原町社協会長	久部良 浩	那覇市社協事務局長
宮古地区	川満 省三	宮古島市社協会長	代表 職員	比嘉 久美 県共募常務理事
八重山地区	川平 永光	石垣市社協会長		山内 良章 県社協事務局長

沖縄県受入被災者 見舞金給付事業 実施状況

このようなきめ細かな生活支援は、頼りにできる親類がいなく土地勘のない避難住民にとっては、「生活再建」に向けた足掛かりとなることは勿論のこと、社協にとっても、地域住民の賛同を得て、自治会や民生委員等と連携した支援の取り組みは、「地域力」を高めていく契機ともなり得るものとして注目される。

沖縄県では、東日本大震災により被災し、県内へ避難してきた世帯に対して、支援見舞金の給付を実施しております。被災者の自立の促進と福祉の向上を図ることを目的とし、本会及び市町村社協にて相談、給付事務を行っています。

4月26日から6月2日現在までの申込者数は144件あり、その内132件（2130万円）が決定し給付しています。

『第1回地域包括ケアとネットワーク（総論）』を開催

6月2日（木）、沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会（事務局・県社協地域福祉部）では「地域包括ケアをすすめるネットワークづくりセミナー」第1回地域包括ケアとネットワーク（総論）を開催し、県内の地域包括支援センターや在宅介護支援センター、社会福祉協議会等より75名の参加があった。

講師の沖縄大学人文学部准教授西尾敦史氏からは、現在の地域包括支援センターのモデルとなった「横浜市地域ケアプラザ」の活動が紹介された。横浜市では約120カ所にプラザと呼ばれる拠点が整備され、高齢者や障害者、子どもたちが住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、地域活動や交流活動、福祉保健サービス、相談窓口の機能を柱とした事業と併せ、各々の地域の特性に合った活動が展開されていることが報告された。



また地域包括支援センター、在宅介護支援センター、社会福祉協議会のそれぞれの役割を踏まえ、平成24年度介護保険法改正の大きなテーマとされる「地域包括ケア」の推進にあたって不可欠となる日常生活圏域でのネットワークづくりの重要性について説かれた。

講義終了後は10グループに分かれ、各センターにおける地域包括ケアとネットワークに関する取り組みの現状と課題について情報交換し、参加者からは「他地域の情報をうかがうことができ、自分たちの良い点、課題点を見つけられる機会となった。」などの意見があった。

あがった。
本セミナーは連続3回講座の第1回。今後、テーマを発展させた内容での開催を予定している。

県総合福祉センター こいのぼり掲揚式 ～おいでおいで みんなで一緒に あそぼうよ～

5月2日（月）、沖縄県総合福祉センター中庭のゆいプラザにおいて、こいのぼり掲揚式を行った。

会場にはセンター入居団体職員をはじめ、園児の保護者や首里偕生園、北嶺学園、いしみね救護園の利用者らが出席し、近隣保育園（みぎわ保育園、太陽保育園、みどり保育園）3園の



手話歌を披露するみぎわ保育園の園児たち

園児たちによる元気いっぱいのお遊戯や歌の披露で華やかな掲揚式となった。
今年の児童福祉週間の標語である「おいでおいでみんなで一緒にあそぼうよ」は、全国から寄せられた応募作品の中から選ばれた長崎県の大瀬美乃里さんの作品。

次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに生まれ育ち、心豊かに生活できる環境をつくることは、家族のみならず県民すべての願いであり、社会全体として取り組むべき課題である。

主催者あいさつの中で、比嘉成和常務理事は、「地域の子どもたち、そして沖縄じゅうの子どもたちが、こいのぼりのように健やかに



お遊戯を披露する太陽保育園の園児たち

に元気で伸び伸びと育つことができるよう、皆様の一層の御尽力をお願いします。」と会場の大人たちへ訴えた。
また、地域の子どもたちを見守り、子育て世帯を支援する民生委員・児童委員を代表して、首里第3民児協の小笠原文子会長よりあいさつがあり、子育て支援活動の一つとして実施している、城北中学校の連携室で毎月第3土曜日に実施している子育てサロンについて紹介があった。

センターでは、児童福祉週間の間、こいのぼりを掲揚すると共に、園児たちのこいのぼりの絵画をセンター内に掲示し、児童福祉週間の啓発を行った。



体操や歌を披露するみどり保育園の園児たち

5月13日開催

『被災者主体のボランティアコーディネーションのつどい in 沖縄』

『災害ボランティア講座』今私たちにできること』

ボランティア活動は被災した人々を支える大切な活動だ。その思いが被災地の力になるためにも、しっかりと「災害ボランティア」「被災者主体」について理解することが大切である。被災地における災害ボランティアでの実際の支援活動を通して、沖縄県内でも共通理解を図る必要性を感じ、この2つの講座を企画した。『つどい』はボランティアコーディネーションに関する支援者向け、『できること』は、災害ボランティアに関心のある方向けに開催した。社協、行政、NPO、企業、大学、民生委員、大学生や一般の方など、『つどい』には79名、『できること』には95名が参加し関心の高さを感じた。

講師の長谷部治さんは、ボランティアコーディネーターは被災者が求める活動

を繋げることが大事と話した。ボランティアの側も、

現地が必要とする活動を優先し、自分がしたいことをおいて「どんな活動でもやります」というスタンスが求められ、被災者が望んでいること、必要としていることを起点とすることが話された。そして、どのような活動にも、被災者の気持ちに寄り添うことが重要と語られた。

例えば、壊れたものや汚れたものを片付ける作業でも、依頼した被災者にとつてはかけがえのないものであり、捨てるしかなくても、つらい気持ちであること、

目の前の作業に取り組むだけでなく、その気持ちに寄り添うこともボランティアだからこそできることだと話された。

また、災害ボラセンは社協が単独で設置するのではなく、基本は協働型でNPOや企業や青年会議所、地域団体等と連携して運営する。社協は住民とともに復興も視野に入れた長期間関わっていく存在であり、様々な外の力を受け入れ、地域につなげていく運営が重要であることも指摘された。

『つどい』では、宮道喜一さん（NPO法人まちなか研究所わくわく）や稲垣暁さん（沖縄大学特別研究員）、仲村辰彦さん（八重瀬町社協）、西智子（県ボラセン）も、現地での活動を報告した。

参加者からは、「ボランテ



■講師の長谷部治さん
（神戸市協職員）

『災害ボランティア活動支援プロジェクト会議』として福島県災害ボランティアセンターに3月より派遣。日本ボランティア・コーディネーター協会理事。



被災地で支援活動にあたった報告者と会場の様子。

イアであるからこそ、現地の“人”を見て、その方々の誇りを大切にしないといけない」という感想も寄せ

られた。2つの講座を通して、「被災者主体」をキーワードとした災害時のボランティア活動やボランティアコーディネーションに必要な視点や取り組み方について共通理解を図ることができた。今後も、支援したい人々の思いが、被災された方々のニーズとあつた活動として展開されるよう、息長い支援が必要である。

★災害ボランティア活動：被災地発信の情報をみてみよう！

- 全社協 被災地支援・災害ボランティア情報

<http://www.saigaivc.com/>

被災地の各市町村災害ボラセンのボランティア募集一覧（随時更新）とリンクあり。

- 岩手県災害ボランティアセンター

<http://www.iwate-shakyo.or.jp/vc/index.html>

- 宮城県災害ボランティアセンター

<http://msv3151.c-bosai.jp/index.php?top>

- 福島県災害ボランティアセンター

<http://www.pref-f-svc.org/>

JR東北新幹線駅からのボランティア・バスの運行や予約情報もあります。

★NPO、NGOを含めた様々な情報

- 東日本大震災支援全国ネットワーク

http://www.jpn-civil.net/about_us/about_us.html

セクターを超えた全国の組織・団体の民間ネットワークです。NPO・NGO活動など支援者向けの情報が満載です。

- 内閣官房ボランティア連携室「助けあいジャパン」

<http://www.tasukeaijapan.jp/>

福祉の
施設で

職場体験

実施中!!

体験型

・福祉・介護のお仕事ってどんな感じ
なのかな? 興味があるので、
ちょっとのぞいてみたいな!



というあなたはこちら!

就労型

・求人事業所へ就職したいけど、
その事業所ってどんな雰囲気の
ところかしら・・・?



というあなたはこちら!

福祉の仕事に興味・関心のある方!
ぜひこの機会に「職場体験」にご参加ください!!



平成23年度 福祉介護人材マッチング支援事業

「マッチねっと」のご紹介



このたび、「平成23年度福祉・介護人材マッチング支援事業」の福祉施設・事業所支援内容の1つで「SNSを活用した福祉人材育成・定着支援事業」を実施する『沖縄県内福祉施設・事業所限定会員事業所向け福祉人材育成・定着支援サイト（通称：マッチねっと）』を立ち上げました。

このサイトでは、主に下記2つの支援内容を重点的に実施します。

- ①宮古・八重山地区福祉施設・事業所を対象として年間参加型による支援
- ②沖縄県内福祉事業所（種別問わず）を対象として情報共有・意見交換のできる
コミュニティ（みんなの広場）の形成および事業所間ネットワークを支援



他にも、「お友達機能」「つぶやき機能」「人材に関するお知らせ」等もご用意しています。『マッチねっと会員皆さま』のご意見ご感想を参考にさせて頂きながら「福祉人材の育成・定着について一緒に考える」サイト運営を行えるよう心掛けていきたいと思っておりますので、是非、ご参加ください!!

※マッチねっと会員は、「事業所単位で1名(事業所長承認必要)」参加となります。「個人」での申込受付は行っておりません。

『マッチねっと』は下記の順番で、インターネット検索・アクセスするとご覧になれます

①「沖縄県社会福祉協議会」



②「福祉人材研修センター」



③ マッチねっと



お問合せ

沖縄県社会福祉協議会 福祉人材研修センター

TEL : 098-882-5703 FAX : 098-887-2068

<http://www.okishakyo.or.jp/jinzai/>

沖縄県福祉人材研修センター

検索

お気軽にお問い合わせください★★

平成23年度介護支援専門員 実務研修試験対策セミナー

～試験対策セミナーを受講してあなたも合格率アップ～

- 参加対象
平成23年度介護支援専門員実務研修受講試験を受講する方
※基礎編、直前編とも受講可能な方に限ります
- 会場
【基礎編Ⅰ】 【直前編】
・沖縄県総合福祉センター（ゆいホール）
住所：那覇市首里石嶺町4-373-1
【基礎編Ⅱ】
・沖縄大学3号館（3-101教室）
住所：那覇市国場555
- 受講料
25,000円（税込）受講料には、模擬試験代を含みます
- 定員
160名 ※定員に達し次第締切ります
- セミナー内容
・福祉サービス分野
7月30日（土）9：30～15：30
・保健医療サービス分野
7月31日（日）9：30～15：30
・介護支援分野
8月6日（土）～7日（日）9：30～15：30
・直前編（模擬試験、解答解説）
9月10日（土）9：30～17：00
※詳しくは、本会ホームページをご参照ください

●お問合せ先

（福）沖縄県社会福祉協議会 福祉人材研修センター
TEL：882-5703（直通）

平成23年度介護支援専門員 実務研修受講試験（ご案内）

【試験日】

10月23日（日）

【試験会場】

本島・宮古島市・石垣市

【受験申込受付期間】

6月13日（月）～7月15日（金）

※消印有効

【受験に要する費用】

9,200円〔消費税込み〕

【「受験の手引き」販売期間】

6月13日（月）～7月15日（金）

※「受験の手引き」の販売は月～金曜日
（土日/祝祭日/慰霊の日を除く）

9時～17時に行います。

価格：1冊 500円〔消費税込み〕

※「受験の手引き」とは、受験要綱・
申込書が入っている冊子の事です。

【販売場所及びお問合せ先】

（福）沖縄県社会福祉協議会
福祉人材研修センター

TEL：882-5703（直通）



平成23年度ソウエルクラブ
おきなわ会員
交流事業を実施

福利厚生センターおきなわ事務局では、地域会員の皆様が年間を通じて利用できるような会員交流事業を企画しています。

今年度は新しくプロ野球公式戦やメンタルヘルス講習会、ミュージカル『アトム』を取り入れ、幅広く会員に充実したサービスを提供していきたいと思っています。

又、昨年度、大変好評を頂いている事業等も今年度も計画していますのでご期待ください。

この他にも、ソウエルクラブでは全国共通で利用できるサービスとして会員のリフレッシュや余暇活用のため

ク、スポーツクラブなどと提携しています。

現在、未加入の法人でも、年間を通してソウエルクラブへの加入を受付けていますので、是非ご加入ください。ソウエルクラブへ加入することで、個々の法人では成し得ない福利厚生事業を全国規模のメリットを活かし、会員のニーズに応じた多種多様なサービスを提供できるようになります。現在では会員が全国20万人を超えサービスも増加しています。

ソウエルクラブは、福祉の職場で働く人の福利厚生を支援しています。職員の確保・定着のためにソウエルクラブをご活用くださいますようお願いしています。

【問い合わせ先】

福利厚生センターおきなわ事務局担当

098-882-5703



福祉の仕事をお探しの方!

福祉の仕事を希望するみなさんの
温かい優しい気持ちを応援します!

福祉人材センターに
求職登録すると...

- 毎月、福祉の求人情報をご自宅へ送付!
- 職場面接会や福祉関係のイベント・セミナー等の情報を提供!!
- 「マッチングシステム」を使った求人紹介!!

インターネットで求人検索!

〈パソコン版〉

福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索

アドレス <http://www.nw.fukushi-work.jp/>

〈携帯版〉

福祉のお仕事

アドレス <http://www.1.fukushi-work.jp/cool/m/>

その他、福祉人材センターでは

- 公開求人の閲覧・紹介 ●福祉の仕事や資格についてのご相談
 - 施設・事業所の資料や資格情報の閲覧ができます!
- 詳しくはお電話にてお問合せください!

お問合せ先

沖縄県福祉人材研修センター

那覇市首里石嶺町4-373-1 東棟3階

TEL : 098-882-5703

緊急告知!

☆福祉用具展示会&研修会開催☆

今、沖縄の福祉が熱い!

沖縄初!福祉用具展示会

福祉用具のメーカーが...なんと?!

35社集結することが決定しましたあ

7月8日(金)と7月9日(土)の2

日間、沖縄県総合福祉センター東棟ゆ

いほーるで約600~1000種類の

福祉用具を展示し、結プラザなどでセ

ニアカーなどの試乗体験ができます。

福祉用具...って何?と思ったあなた

に...

クイズです!

個人差や毎日使用する方と使用しない

方がいますが、男女に拘らず日常生活

の中で毎日使われている身近にある福

祉用具はなんですか?答えはこちら...

クイズの正解は会場にてお伝えしたい

と思います。

正解が気になる方は、ご家族・友人・

お隣さんお誘いの上ぜひ会場にお越し

ください。初めて目にする福祉用具

や新商品が皆さんをお待ちしてお

ります。また、専門従事者や一

般県民の方々対象の研修も開催

いたしますので参加・申込み

の際は下記までご連絡をくだ

さい。

展示コーナー

研修会：7月8日(金)

●午後の部

(14:00~15:30)

“ベッド柵・手すりでの

安全情報”

会場：東棟403研修室

メーカー35社出展!!

(600~1000種類を展示予定)

見たことのない福祉用具・新商品も
数多く見れます。

ぜひ足を運んでご覧ください♪

※体験コーナー、相談コーナーもあります。

研修会：7月9日(土)

●午前の部 (11:00~12:30)

『褥瘡ケア』や『緩和ケア』で
求められる耐圧分散式寝具と
看護介護技術

●午後の部 (14:00~15:30)

そこが知りたい“介護”保険
会場：東棟403研修室

お申込み・お問い合わせ：沖縄県介護実習・普及セン

・電話 098-882-1484・F a x 098-882-1486

第3回沖縄ねんりんピック

かりゆし美術展

作品募集

「シニアの創作活動を応援します」

高齢者の創作による美術作品を展示し、芸術文化活動における参加機会を促すとともに、趣味活動や創作意欲を高め、生きがいを持ち、明るく活力ある長寿社会づくりに寄与することを目的に「第3回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」を平成23年12月14日（水）～18日（日）の5日間、沖縄県立博物館・美術館企画ギャラリーにおいて開催します。

また、優秀作品は、来年宮城県で開催される「第25回全国健康福祉祭宮城・仙台大会（ねんりんピック宮城・仙台2012）美術展」に沖縄県代表作品として出品します。募集期間は、6月17日（金）～10月21日（金）までの4ヶ月間多くの皆様の御応募お待ちしております。募集に関するお問い合わせは、いきいき長寿センターまで。

電話 887・1344

第3回 沖縄ねんりんピック
かりゆし美術展
～ シニアの創作活動を応援します ～
募集期間 平成23年 6月17日（金）～10月21日（金）応募
展示期間 平成23年 12月14日（水）～12月18日（日）
入場無料

*募集要項、申込書については、
本会ホームページからダウンロード
できます。

【沖縄県社協人事異動】

【退職】 6月5日付

民生部部長 前東弘教

【昇任】 6月6日付

民生部部長 宮城真政（前
いきいき長寿センター副所長）

【寄付・寄贈者芳名】

（4月13日～6月3日）

● 沖縄県地域活動連絡
協議会 様

● いけばなインター
ナショナル沖縄支部 様

● 宮城 千代 様

東日本大震災 避難してきた方へのサポートプログラム
おきなわを楽しむ★子育て支援プロジェクト

東日本大震災の影響で、
沖縄県内に避難されてい
る方へ、沖縄のNPOや
出版社が出した子育てや
沖縄関連の本を差し上げ
ます！

被災県に限らず無償で
提供します。（一部子育
て中の方以外の方を対象
の本あり）

【取り組み期間】

6月27日（月）～

9月30日（金）

【提供方法】

①～⑥の以下の本を、
県内全ての市町村社協で
配布します！

【問合せ先】

沖縄県ボランティア・
市民活動支援センター
電話 098（884）4548



- ①『地元ママが作った子連れで楽しむ沖縄 特別編集号』2009年、
- ②『家族で行きたいおいしいお店』2009年、
- ③『ういず！幼稚園BOOK 2009年版』、
- ④『ponpon（ポンポン）おきなわマタニティ＆子育てお役立ちブック』2009年、
- ⑤『ハッピーアイランドの本8』2008年、
- ⑥『バスマップ中南部版』、『バスマップ北部・離島版』 ※提供は、①②③沖縄子育て情報ういず！、④⑤（有）ボーダーインク、⑥バスマップ沖縄

表紙の写真
作品名「磯に漂う船」



撮影者 神里信子さん

この作品は、昨年8月
にかりゆし長寿大学の
生活環境学科クラスで渡
嘉敷島に宿泊した際に撮
影したものです。神里さ
んは、「大学校生活はと
ても楽しく、授業のある
日が待ち遠しかった」と
言います。絵画の趣味も
持つ神里さんは、写真ク
ラブでバランスの取り方
などを学ぶことができ、
絵を描く上でもとても参
考になったそうです。

編集後記

実績・決算報告も無事に終
わって、ほっとひと息。そん
な中、沖縄では梅雨の最中に
台風2号が直撃し、激しい暴
風によって自然の脅威を実感
したところです。東日本大震
災による被災者支援への想い
を新たに。